



ここが訊きたい

「こども第一主義」のさまざまな課題のうち、就学前の子どもに対する子育て支援行政を取り上げた今回の特集。さらに詳しい情報について、こども家庭部の鈴木敏子部長に聞きました。



浜松市こども家庭部  
鈴木敏子 部長

「エンゼルヘルパー」とはどのような内容の市民サービスなの？



浜松市が平成19年度から実施している「エンゼルヘルパー派遣事業」は、妊娠中から

生後1歳までのお子さんを育てている家庭へ、市と契約を結んだ事業者からヘルパーを派遣し、身の回りの世話や育児などをサポートする制度です。出産後、しばらくお母さんの体調回復や、赤ちゃんの世話などで大変な時期、経験豊富なヘルパーさんを利用していただきたいと思えます。利用料金に対する市の助成は1時間1000円、最大50時間(単胎児の場合)まで利用できます。業者と利用料金一覧は、NPO法人はままつ子育てネットワーク「びっぴ」のホームページをご覧ください。  
(検索ソフトで「浜松市 びっぴ」と入力すれば、すぐ見つかります。)

中学生までの入院医療費助成など手厚い子育て支援を推進

We have the dreams. .... 特集 わたしたちには夢がある こども第一主義の「これから」 Part.1

子どもの医療費助成はどうなっているの？

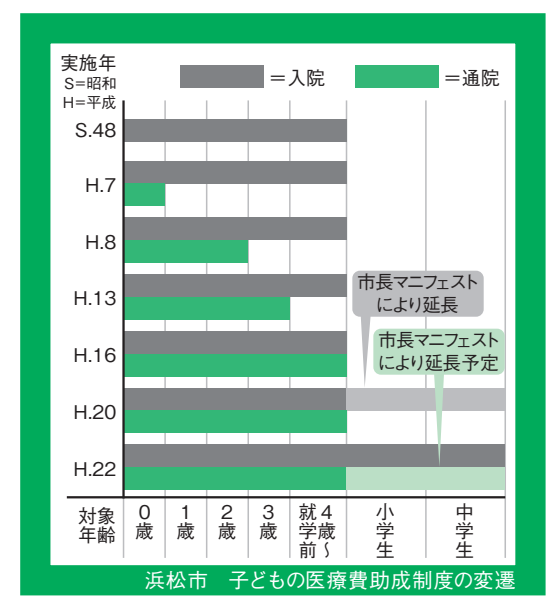


0歳〜小学校就学前の乳幼児が病気などでお医者さんにかかった場合、健康保険の対象の医療費(通院・入院)の一部を市と県が助成しています。これによって、自己負担金は1回500円(500円未満の時はその額)となり、月4回まではこの金額、月5回目からは無料となります。

また入院医療費については、今年度から浜松市独自に中学3年生まで助成することになりました。助成内容は、入院して支払った費用から「入院日数×500円」(保険診療の適用外の費用(差額ベッド代、文書料など)「食事代」高額療養費(医療費の患者負担が基準より高額になると、健康保険から患者に給付されるお金)を差し引いた金額が助成されます。

さらに、平成22年度からは市長マニフェストにより、小・中学生の通院医療費も助成の対象となります。参考として、右表「子どもの医療費助成制度の変遷」をご覧ください。

このように、浜松市では子ども医療費に対する手厚い助成を心掛けていますが、一方では困難な課題もあります。全般的な医師不足や小児科医の多忙などにより、医療現場に広がる疲弊。緊急性のない患者が夜間や休日に救急を受診するため、一刻を争う急患への対応に遅れが生じること。こうした深刻な問題は、浜松市を含め全国に広がっています。本当に必要な時に迅速に受診できるよう、中学生までの通院医療費助成が実施される22年度までに、市民の皆さんとともに考えていきたいと思えます。



子育て中のお母さんをサポートするためのサービスはあるの？



「子育てを援助してほしい人」と「子育てを援助したい人」がお互い会員になって、子育てを助け合う「ファミリー・サポート・センター」の制度があります。会員は、子育てを援助してほしい「おねがい会員」、子育てを援助したい「まかせて会員」、援助してほしいし援助もしたい「どっちも会員」の3種類。

ファミリー・サポート・センターは「保育園・幼稚園の開始前、終了後に子どもを預かってほしい」「病院や上の子の参観会に行くので、下の子を預かってほしい」「少しの間、親が子育てを離れて自分自身の時間を持ちたい」などのニーズに応えています。事務局(浜松市子育て情報センター内、☎457-2901)に、いつ子どもを預かってほしいか連絡すれば、都合のつく「まかせて会員」を紹介してもらえます。条件や料金などは事務局にお問い合わせください。

このほか浜松市では、子育て中の親子や妊婦さんが気軽に集える「子育て広場」や遊びや体験を通して子どもの成長を促す「児童館」なおよし館なども運営されています。子育て中のお母さんには出掛けられる場所が少なく、周囲から孤立しがち。そんな時は「子育て広場」などを利用して、ほかのお母さんたちとの交流、年配者への相談などをしてほしいと思えます。

